

《対象疾患について》

<p>ロタウイルス</p>	<p>口から侵入したロタウイルスによって引き起こされる急性の胃腸炎で、乳幼児のうちにはほぼすべての子どもさんが感染します。感染力が非常に強く、手洗いや消毒をしっかりとしても感染予防をすることは難しいです。乳幼児の急性胃腸炎の入院の中で最も多く、初めてロタウイルスに感染したときは、重症化しやすく、まれに意識障害をおこしたり死亡することもあります。</p>
<p>ヒブ</p>	<p>鼻やのどにいるインフルエンザ菌 b 型ウイルスの感染で起こります。初期症状は、発熱・嘔吐・元気がないなどの風邪症状と変わりなく早期診断が困難で急速に病状が進行します。時として髄膜炎・肺炎・咽頭炎など多彩で重い合併症を引き起こすことがあります。</p>
<p>小児用肺炎球菌</p>	<p>肺炎球菌が呼吸器から体内に侵入し感染します。特に2歳以下の子どもでは細菌性髄膜炎を発症し、重度の後遺症をおこしたり死亡することもあります。</p>
<p>B型肝炎</p>	<p>B型肝炎ウイルスを持つ母親からだけでなく、父親、家族や友人ウイルスに汚染された血液の輸血や性行為で感染します。子供の場合は、原因不明こともよくあります。肝炎になると、疲れやすくなり、黄疸が出ます。慢性化すると肝硬変や肝臓がんがおこります。</p>
<p>四種混合 ジフテリア 百日せき 破傷風 ポリオ</p>	<p>〔ジフテリア〕 ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。感染は主に咽頭ですが鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、咳、嘔吐などで、偽膜を形成して窒息死することがある恐ろしい病気です。</p> <p>〔百日咳〕 百日咳菌の飛沫感染で起こります。普通のかぜのような症状で始まり続いて咳がひどくなり、顔を真っ赤にして連続的に咳き込むようになります。肺炎や脳症などの重い合併症をおこし乳幼児では命を落とすこともあります。</p> <p>〔破傷風〕 土の中にひそんでいる破傷風菌が傷口から入り感染します。菌の出す毒素のためにけいれんをおこしたり、死亡することもあります。日本中どこでも土中に菌はいますので、感染する機会は常にあります。</p> <p>〔ポリオ〕 「小児マヒ」と呼ばれ、四肢にまひを起こす病気です。日本でも30年前までは流行お繰り返していましたが、予防接種の効果で国内での自然感染は報告されていません。しかし、東南アジアや中国などではポリオの流行があります。これらの地域で日本人が感染したり、日本にウイルスが入ってくる可能性があります。感染した人の便中に排泄されたウイルスが口から入り咽頭または腸に感染します。</p>
<p>BCG</p>	<p>結核を予防するもので、直接BCG接種を1回します。わが国の結核はかなり減少しましたが、まだ3万人を超える患者が毎年発生しており、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力はお母さんからもらうことができませんので生れたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。</p>

<p>麻疹・風しん (MR)</p>	<p>〔麻疹〕 麻疹ウイルスの飛沫感染によって起こる病気です。感染力が強く、一生のうちに一度はかかる重い病気です。発熱、咳、鼻汁、めやに、発しんを主症状とします。1歳から2歳の間にかかる子が多くなっています。1歳になったらすぐに予防接種を受けるように努めましょう。</p> <hr/> <p>〔風しん〕 風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。軽い風邪症状ではじまり、発しん、発熱、後頸部リンパ節がはれるなどが主症状です。発しんも熱も約3日間でなおりますので「三日ばしか」とも呼ばれています。</p>
<p>水痘 (水ぼうそう)</p>	<p>水痘帯状疱疹ウイルスの感染により、かゆみのある虫刺されのような発疹が出て水ぶくれになり、全身に広がります。7日程度でかさぶたになります。脳炎や肺炎、皮膚の重い細菌感染症などがあり、死亡することもあります。</p>
<p>日本脳炎</p>	<p>日本脳炎ウイルスの感染で起こります。ヒトから直接でなくブタの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され感染します。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。</p>
<p>子宮頸がん</p>	<p>HPV（ヒトパピローマウイルス）は皮膚や粘膜に感染するウイルスで、100種類以上のタイプがあります。HPVは子宮頸がんの原因となることが多いです。</p>
<p>インフルエンザ</p>	<p>インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。症状は、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などでのどの痛み、咳、鼻水もみられます。普通のかぜに比べて全身症状が強いのが特徴です。気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いのも特徴です。特に65歳以上の高齢者や慢性疾患患者で死亡率が高くなるという点でも普通のかぜとは異なります。</p>
<p>高齢者肺炎球菌</p>	<p>この菌による肺炎は、成人肺炎の25～40%を占めます。肺炎球菌の90種類以上ある血清型の中で、頻度の高い23種類の血清型を型別に培養し組織の一部を混合したワクチンです。重症化を防止し死亡のリスクを軽減させる効果が期待されます。</p>